

明治公園「さくらの森」植樹事業

1300本のサクラに包まれる

「花見の名所」への夢実現に市民との協働で4年間

平成18年10月、根室測候所観測史上1番となる大型低気圧が根室を襲いました。最大瞬間風速42・2mを記録したこの低気圧は、市内各所に大きな被害をもたらしました。

明治公園に古くから繁るカラマツ林も被害を受け、161本が倒れ39本が危険木となってしまう、根室市民の憩いの場が、一瞬にして姿を変えてしまったことに驚きが走りました。

翌年は市制施行50周年を迎える年でもあり、被害のあったカラマツ林を「さくらの森」として復活させようと、まちづくり記念事業としてねむろ景観づくりコラボ倶楽部と市の共催で、復活への取り組みが始まりました。

当時、明治公園に既存していたサクラは580本ほど。第1回目の植樹を行った平成19年は、北海道新聞社等が主催する「北海道千本桜運動」からエゾヤマザクラ100本が贈呈され、花見の名所づくりへの第1歩が、市民皆さんとの協働によりスタートしました。この植樹事業は、スタートから多く

明治公園の概要

- ・昭和57年12月1日開設 11.40ha 総合公園
- ・明治8年に国立の「開拓使根室牧畜場」として創設され、北海道で2番目の歴史を誇る牧場跡地を利用
- ・赤レンガ積みサイロ3基 国指定登録有形文化財（平成13年8月28日指定）、近代化産業遺産（平成19年11月30日認定）
- ・日本の歴史公園100選（平成18年10月27日認定）

の関心を集めました。平成20年から3年間にわたるニトリ北海道応援基金助成や平成20年の北方領土隣接地域等事業推進費補助、平成21年の東京根室会の記念植樹、平成22年の釧路自動車販売店協会からの寄付などにより順次植樹が進められ、4年間で延べ530人の皆さんのご協力をいただきました。

園内に既存する成木のサクラも、サイロ広場や多目的広場へと移植され、明治公園のシンボルとなっている3本のサイロを中心に、新しい光景を生み出しています。

今年で終了となるこの事業ですが、6月6日の植樹にも多くの市民の皆さんが参加し、これまでの植樹活動を振り返りながら、苗木一本一本を丁寧に植え込む作業に取り組みました。

総本数1292本となったサクラは公園全体を包み込み、数年後には見事に咲き乱れる姿を想像させてくれます。道東のサクラの見所は「明治公園」が一番となるその日のために、あたたかくサクラの成長を見守りましょう。



6月6日の植樹が終了しての記念写真